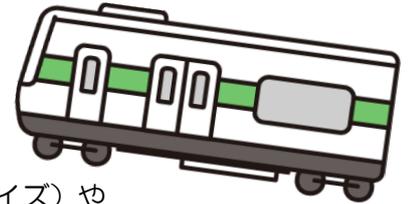


## 中央図書館発 鉄道旅

福山駅には福塩線、井原線、山陽本線、山陽新幹線などたくさんの路線が乗り入れています。通勤や通学、旅行などで利用し、みなさん思い出があるのではないのでしょうか。

そんな身近な鉄道の車両模型（HOゲージ：実物大の80分の1サイズ）や写真を展示します。鉄道の魅力を感じてください！



#### \*展示のご案内\*

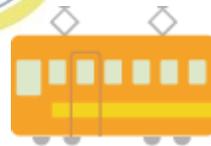
#### 『中央図書館 鉄道旅』

日時：3月12日（水）～6月9日（月）

場所：中央図書館

2階 郷土資料展示コーナー

内容：車両模型（HOゲージ：実物大の80分の1サイズ）や鉄道写真の展示



- 『ローカル線で行こう！鉄旅ガイド』  
やまもと のりこ／著  
南々社 [K291ヤ]
- 『昭和30年代～50年代の地方私鉄を歩く』  
第26巻 高井 薫平／著  
フォト・パブリッシング [K686タ]
- 『おしゃべりなふくえんせん』  
林 亜弥／絵 広江 佳名子／文  
府中市役所都市デザイン課 [Eオ]

CHECK!

福塩線（福山～府中間）開業110周年を記念してデザインされたヘッドマークを設置した車両が、2025年（令和7年）3月末まで運行しています。

何時に運行するかは公表されていません。もし見かけたらラッキーかも！！

福塩線開業110周年記念ヘッドマークを設置した車両  
(2025年2月4日 駅家駅にて撮影)





## 今までにあった質問と回答を一部紹介します



質問

鞆の浦で行われる「鯛網」の創始者について知りたい。

回答

鞆の浦で毎年5月に行われる鯛網は、瀬戸内海に初夏をつげる風物詩となっています。そんな鯛網の創始者は、村上水軍の村上太郎兵衛という人です。発祥は、江戸時代の走島と伝えられています。江戸時代初期、走島は海上交通の発展に伴う難破船の救助や、水の補給地としての役割を担っていました。因島から鞆に来ていた太郎兵衛は、走島への移住を願い出ました。庄屋として走島に渡った太郎兵衛は、走島の開発に乗り出します。香川県方面で行われていた漁法を手本にして、これを押しはり網に改良し、現在の集魚灯のような役目を果たす漁具を考え出しました。

江戸初期までは島近くを通る鯛の小集団をめがけて、陸地から地引網をかけて漁をしていましたが、いつしか大集団を見つけ、それを待ち構えて捕らえることを考えつきました。これが沖鯛網の始まりです。

1632年（寛永9年）に本格的な鯛網が開始され、それから1916年（大正12年）まで村上家が10代にわたって庄屋を続け、鯛網を育ててきました。

★『歴史紀行鞆の浦』

森本 繁／著

芦田川文庫 [K211 モ]

★『広島県文化百選』2

中国新聞社 [K290ヒ2]

★『走島の記録』昭和54年

福山市立走島中学校

[H211ハ1979]

★『福山市広報「福山市民」』第414号

(1979年4月25日)

福山市 (デジタルアーカイブ)

## ●●郷土資料 新着本の紹介●●

★『47都道府県ご当地文化百科』34 広島県

丸善出版

[K291 ヨ 34]

★『広島ではたらきたくなる本』

坂上 俊次／著

南々社

[K335 サ]

★『村田兆治という生き方』

三浦 基裕／著

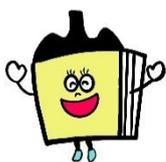
ベースボール・マガジン社 [K783 ム]

次回の

「郷土資料通信 KASUMI」は

2025年6月発行予定です。

お楽しみに！



福山市図書館  
キャラクター  
とじょう子

## 『福山・郷土の偉人たち①』

田中宏行／著

エフエムふくやま [K281 タ]

本書は「FMふくやま月刊こども新聞」の連載を元に書籍化したものです。日本や世界の人々のために活躍した、38人の福山ゆかりの偉人や経営者について、写真とともに紹介しています。

その中の一人である福山出身の足利瑞義(ずいぎ)は、明治から大正にかけ、仏教伝来の経路と仏教遺跡の調査のため、アジア全域を踏査した「大谷探検隊」の一員です。

大谷探検隊の活動は、当時の日本人の多くにとって、未知の世界だった砂漠や草原、氷河のある高山地帯などに及び、決死の探検でした。

童謡「かもめの水兵さん」のモデルとなった人物でもあります。